

ふくしまの今を語る人 県外派遣事業について



受託事業者
株式会社 クリフ
令和2（2020）年度版



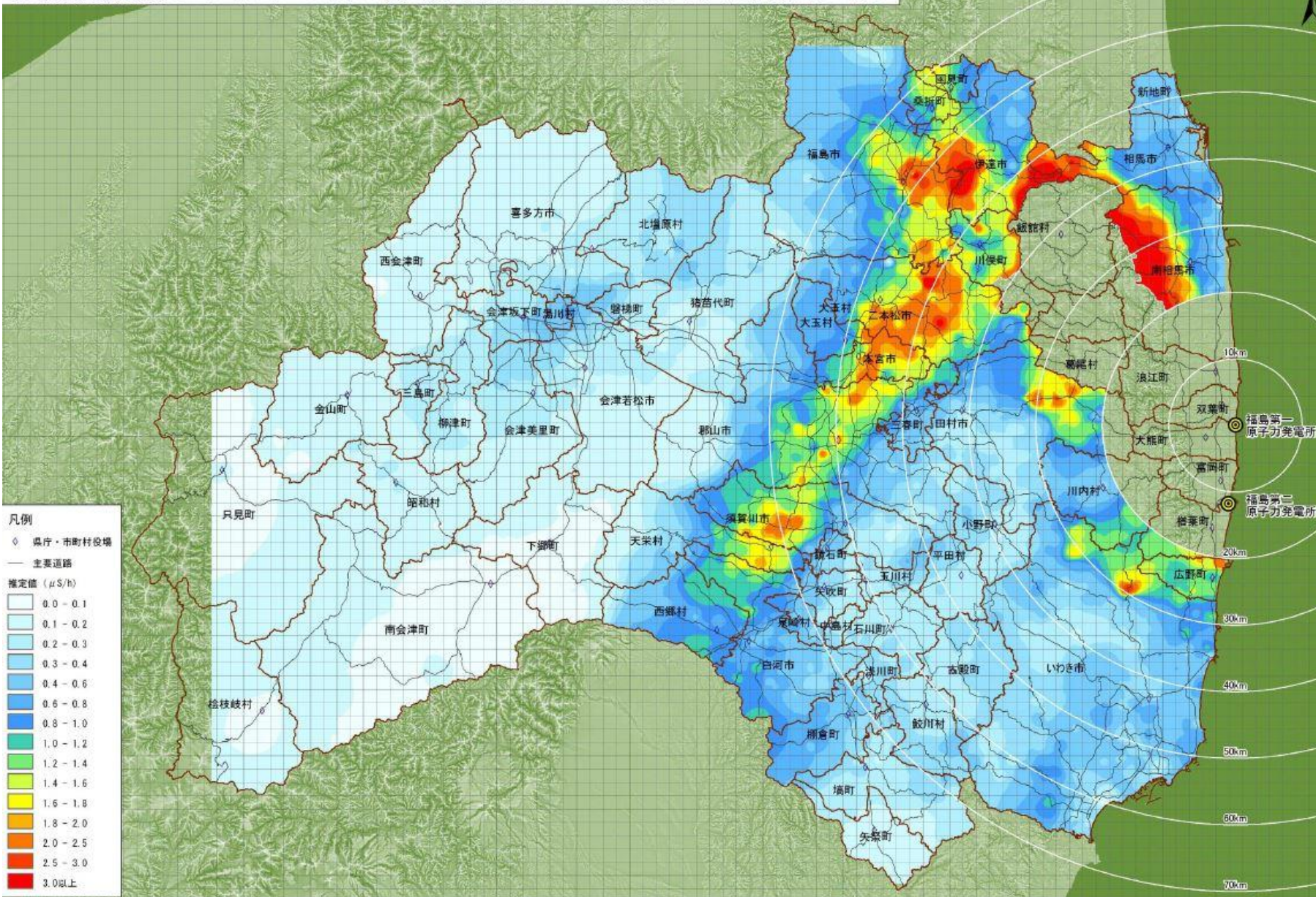
「うつくしま ふくしま」

- ・広い面積 13,783.74km²(日本3位)
- ・人口 約1,829,600人(令和2年6月現在)
- ・東京から新幹線81分(1時間21分)



事故後の空間線量図(平成23年4月時点)

福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査(第1回)結果に基づく福島県全域の空間線量率マップ



避難指示区域

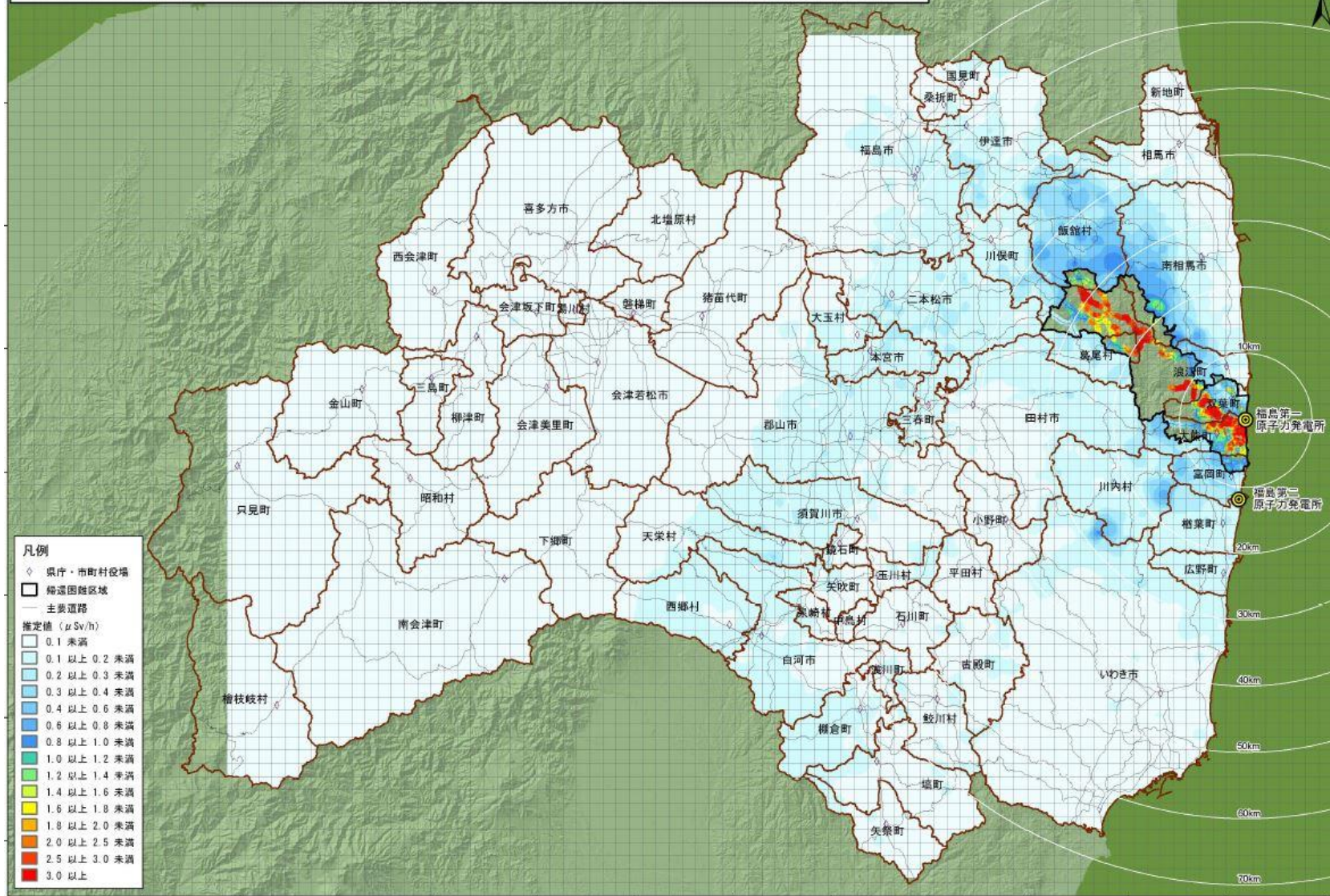
12市町村(田村市、南相馬市、川俣町、
 広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大
 熊町、
 双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村)
 ※平成23年4月22日時点

避難者数 164,865人(県内避難者
 102,827人、
 県外避難者62,038人) ※ピーク時(平
 成24年5月)



・直近の空間線量図(令和2年5月時点)

福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査(第12回)結果等に基づく福島県全域の空間線量率マップ



■**帰還困難区域** 7市町村(大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市、富岡町、飯館村、葛尾村(それぞれ一部))

※令和2年4月28日時点

■**県外避難者数** 31,211人
※令和2年4月28日現在

16日の県内各地の環境放射線量測定値

単位はμSv/時間。午後3時現在。「…」は調整中。現・旧避難区域がある12市町村は全地点、残る市町村は1地点のみ掲載

福島市	0.12	星の村ふれあい館	0.05
県北保健福祉事務所	0.12	カブトムシ自然の森	0.09
二本松市	0.13	戸沢出張所	0.06
二本松市役所	0.13	移出出張所	0.06
伊達市	0.09	七郷出張所	0.07
伊達市役所保原本庁舎	0.09	美山出張所	0.07
本宮市	0.05	都路行政局	0.09
本宮市役所	0.05	岩井沢プール駐車場	0.09
桑折町	0.04	石黒集落センター	0.09
桑折町役場	0.04	久保上地区集会所	0.07
国見町	0.04	黒川改善センター	0.05
国見町役場	0.04	南合集会所	0.06
川俣町	0.04	上道公民館	0.10
川俣町役場	0.04	大久保生活改善センター	...
小島公民館(コミュニテ	0.07	上山口集会所(屯所)	0.10
小島公民館	0.07	大槻生活改善センター	0.07
富田公民館	0.06	小滝沢転作推進技術研修	0.08
小網木公民館(生活改善	0.08	セツタ	0.08
センター)	0.08	地見城多目的研修集会所	0.06
山木屋「田代集会所」	...	設	0.06
山木屋駐在所	0.10	常葉行政局	0.07
山木屋八区コミュニテ	0.10	場々多目的研修センター	0.08
イー消防センター	0.30	合子集落農事集会所	0.07
草集会所	0.07	田村市図書館(旧田村市	0.06
山木屋小	0.11	役所)	0.06
大玉村	0.07	田村市船引公民館	0.05
大玉村役場	0.07	須田集会所	0.09
郡山市	0.11	馬洗戸集会所	0.07
郡山市役所	0.11	鏡石町	0.06
須賀川市	0.11	鏡石町役場	0.06
		天栄村	0.06

「反転耕」

表層土と深い位置の土を入れ替える



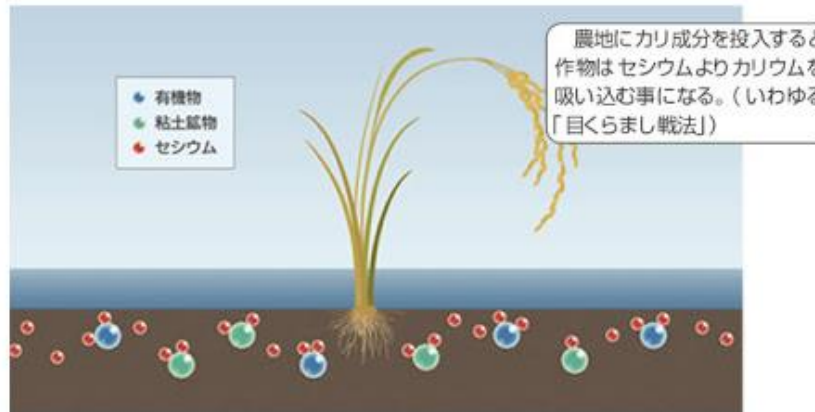
「樹体の洗浄」

果樹の皮を剥がして洗浄



「吸収抑制」

吸収抑制剤(カリウム)の散布



2012年春、10アールに200kgのゼオライト投入

除染の推進

(1) 除染の状況

○実施状況

① 除染特別地域

- ・ 除染実施計画に基づく面的除染は、平成29年3月で終了しました。
- ・ 帰還困難区域においては、双葉町、大熊町、浪江町、富岡町、飯館村及び葛尾村の復興拠点整備に向けた除染が進められています。

② 汚染状況重点調査地域

- ・ 除染実施計画に基づく面的除染は、平成30年3月で終了しました。

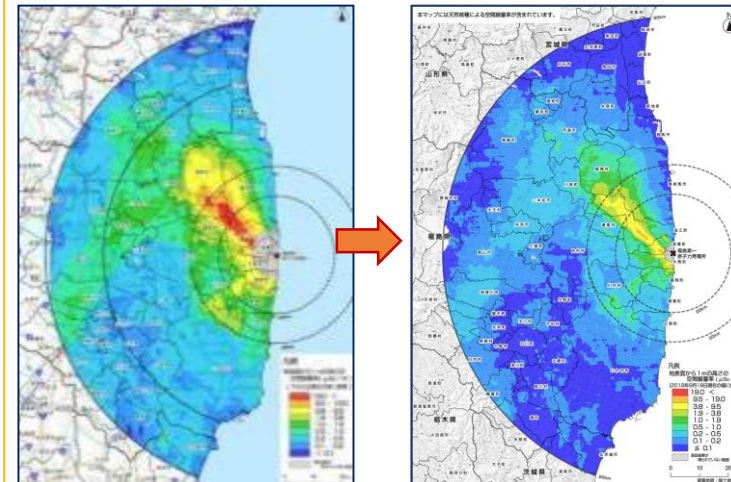
【除染実施数(平成30年3月末現在)】

区分	除染特別地域	汚染状況重点調査地域
住 宅	23,000 戸	418,583 戸
公共施設等	—	11,958 施設
道 路	1,500 km	18,841 km
農 地	8,700 ha	31,061 ha
森林(生活圏)	7,800 ha	4,478 ha

【空間線量率の推移】

●平成23年5月
(事故後2か月)

●令和元年9月
(事故後8年6か月)



【出典】原子力規制委員会「福島県及びその近隣県における航空機モニタリングの測定結果について」令和2年2月13日公表

米の全量全袋検査から、抽出検査に移行

検査結果の公表



- ・平成24(2012)年～令和元年(2019)まで検査:8,160万件(1袋30^キ口)
基準値超:101件(24年産71件、25年産28件、26年産2件)
平成27(2015)年産以降はゼロ

- ・検査費用:31(2019)年度の52億円から8割減の8億円に

牛肉の全頭検査から全戸検査へ移行

平成31年(2019)まで約17万超の牛を検査してきた(ゼロ)

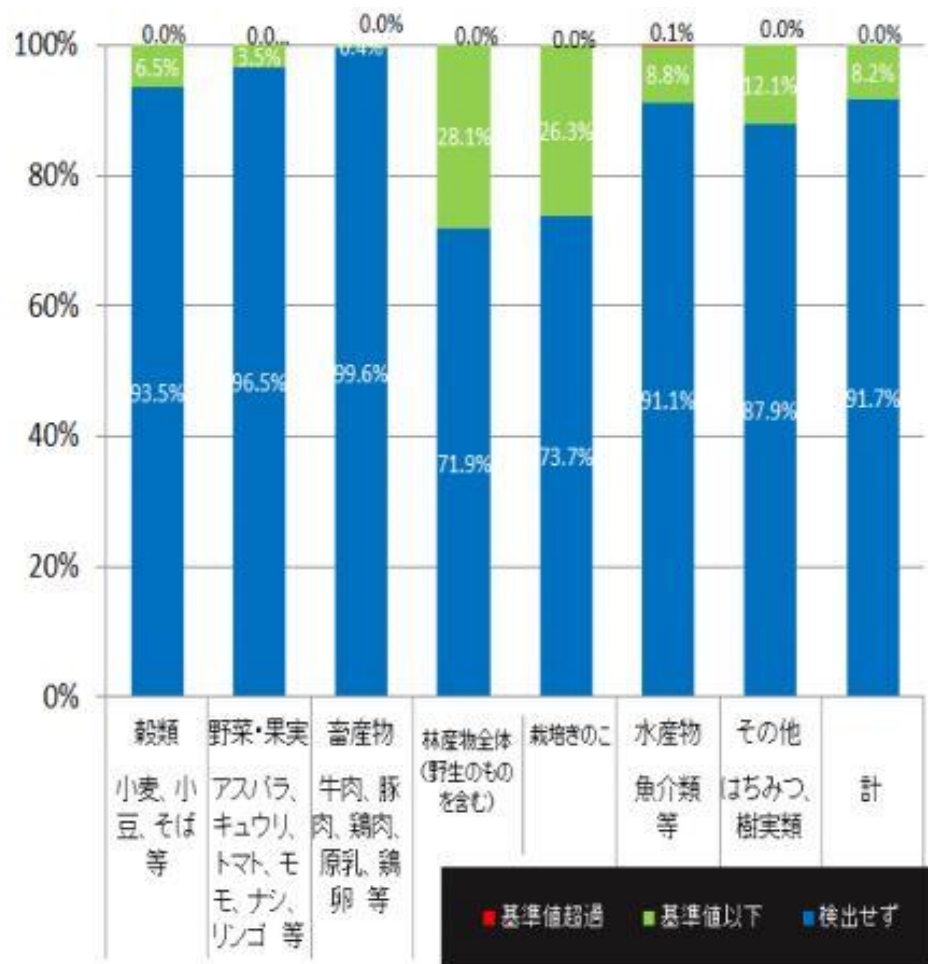


クール冷蔵

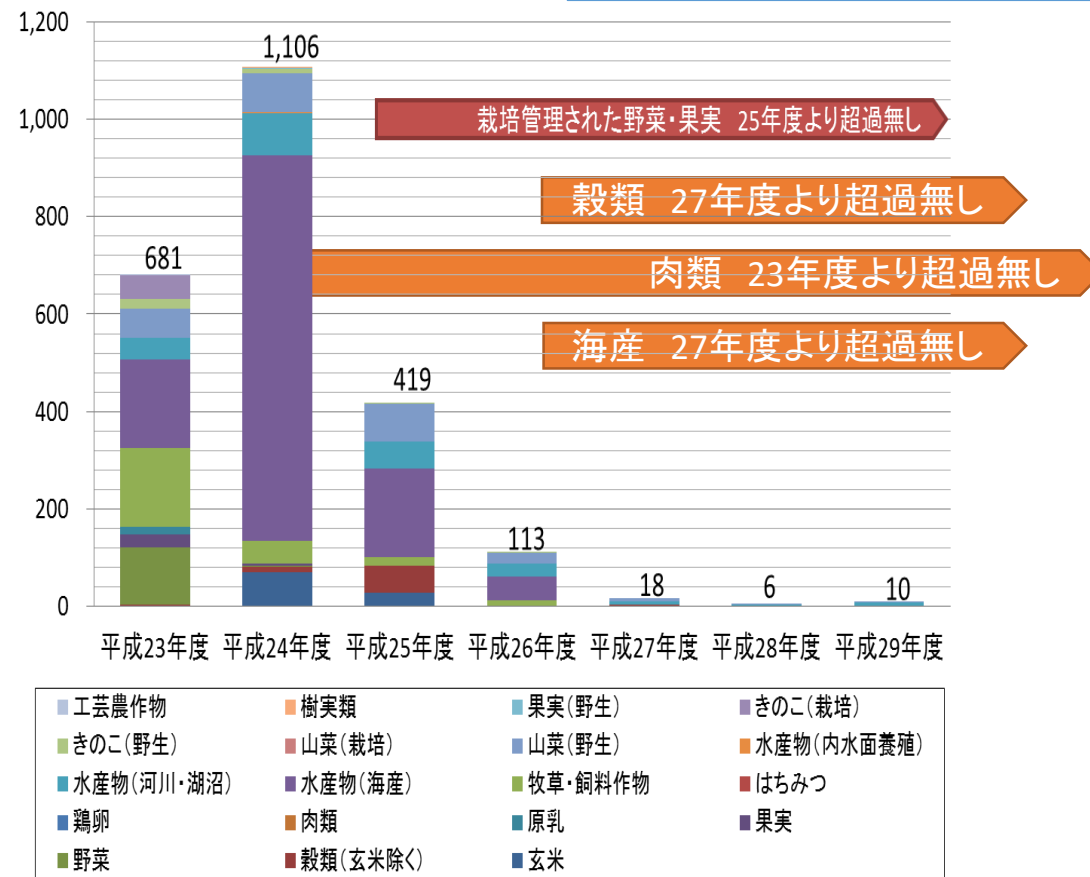
モニタリング基準値超過件数の推移

平成23（2011）年3月

～令和2（2020）年3月



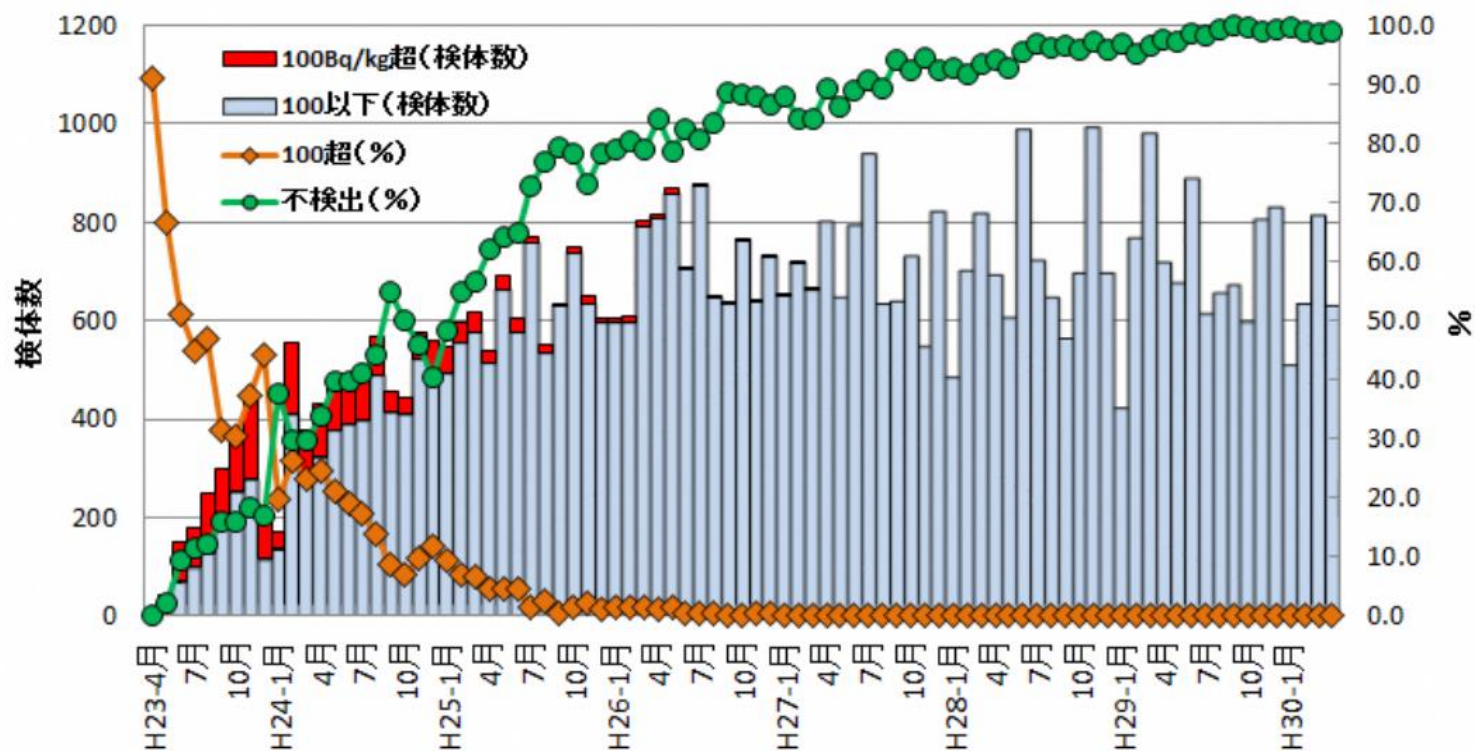
福島県環境保全農業課作成資料より抜粋



- ・令和元(2019)年度は475 品目、15,760件のモニタリング検査
- ・基準値超過は4件(全体の0.03%)
(基準値を超えたのは、国から出荷制限の指示がなされている河川・湖沼の魚類4件(イワナ・ヤマメ))
- ・野菜・果実、畜産物は、検出下限値未満の割合がそれぞれ96.5%99.6%

海産魚介類のモニタリング検査結果

- 海産魚介類の放射性セシウム濃度は明確に低下
- 2015年4月以降、**国の基準値超えはゼロ(100b以下)**
- 2017年以降は**99%が不検出**
- 漁業組合での自主検査**100%が不検出(50b以下)**



出荷制限: 最多44魚種
(2020.02.25にすべて解除)

福島県環境保全農業課作成資料より抜粋

それでも・・・



消費者の理解促進

食品と放射能をテーマとした講演会等

○食と放射能に関する説明会

県民の皆様に放射能や食の安全性について正確な知識を得ていただくことを目的に、平成24年度から毎年開催しています。

県内各地の消費者団体や町内会、企業、学校等からの要望を受けて、学識経験者による講演や、生産者の取組の説明、放射能検査機器の実演などを年間を通して行っています。20人程度からの比較的小規模な集まりで開催しています。令和元年度は55回実施しました。



学識経験者による講演



放射能測定の実習

消費者の理解促進

消費者と生産者等との交流

○首都圏等消費者向けモニターツアー

首都圏等の消費者が、不正確な情報や思い込みに惑わされず、福島県産品と放射能について正しく理解いただけるよう、福島県内の生産・加工・流通の現場を訪問するモニターツアーを実施しています。令和元年度は、11回のツアーを実施しました。



「ふくしまの今を語る人」 県外派遣事業

- 平成26(2014)～令和元(2019)年度 212回開催 19,765名参加
- 令和2(2020)年度
25回開催予定

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業は、平成26年にスタートし、令和元年度までに、全国で212回講師を派遣し、消費者の皆様にご生のお声をお届けしました。

全国の自治体や消費者団体からの申し込みをもとに、本県生産地における放射性物質低減の取組みや放射能検査の状況等を関係者自らが講演者（「ふくしまの今を語る人」）として出向いて説明・紹介します。

会場の要望により福島県産品の試食なども行ない、風評の払拭を目指しています。

